

纏足・マイクロ資料室

猪之原 菖子

マイクロフィルムの利用範囲は、今日ますます多方面にわたり、とくに企業における調査、開発、システム計画などにその利用はめざましいものがある。

大学もまた研究に教育に、あるいは業務面にマイクロフィルムをかなり取り入れられており、研究者の個人的な研究資料のなかにもマイクロフィルム資料は非常に多くなつてきている。

早稲田大学図書館でも本館の一角にマイクロ資料室を開設して以来、利用者の絶え間はなく、今後いつその利用増が予想されるので、その時の状況に即応するための設備と資料の充実が必要となろう。

ご承知のとおり図書館では膨大な図書資料を抱え、その保存には頭を痛めている。その上、はてしなく累増する図書資料に対する書庫の拡張にも限界があり、

ひとこと

万巻の書もマイクロ化することによって小さな容積に納め得るところから、遠からずマイクロ体資料の優先購入などが考慮されなければならないであろうがそのためには出版印行形体がマイクロ体をも併行させる時代に入らなければならない。

マイクロフィルム化は、資料の集約・軽量化を計ることであり、すなわち貴重書の保護、資料交換、情報伝達には欠かせなく、また労力、費用、時間の節約をはかる方法の一つでもある。同時に他面にはパルプ資源の節約にもつながっている。

本館ではすでに館蔵の「萬朝報」「早稲田文学」「早稲田大学新聞」などをフィルム化したのが、そのほかにも「府県史料」「朝野舊聞哀藁」「寛永諸家系図傳」「皇明文海」「西竹文庫」「National Archives of U.S.」「Human Relations」など多数のマイクロ資料を収蔵している。

マイクロ資料室の利用者は、これらの備付資料のほかに、個々に参考室を通じて入手した国内外の資料やあるいは自分の足で捜して撮影した資料のフィルムを持参して、リーダーやリーダープリンタ

ーで読んだり、必要箇所をプリントしたりして研究に役立てている。

現在マイクロ資料室には、リーダープリンターのネガフィルム用2台、ポジフィルム用1台、ネガ・ポジ両用1台があり、そのほかに普通のリーダー3台が備え付けられているが、利用者数に比して機器数も資料数も不十分で、研究者の要望に対して抜本的な対策が必要である。

毎日のサービスのなかで、日ごとに利用者が増え、マイクロフィルムに対する知識や理解が深まっていくなればうれしいことである。この一頁を読まれて、図書館にマイクロ資料室というサービスマスがあったのか、それではとお出かけたいたいても、機器の台数に限りがあり、すぐにご利用できない場合があるため、あらかじめ予約を申し込まれるか、電話でのお問い合わせをお願いしている。

なお、学内には、種々のマイクロ資料が分散して購入され、知る人ぞ知るの状態で広く利用されていないのは惜しいことで、マイクロ資料センターを設置して多くの研究者の利用しやすいうように資料の統合や設備の拡充を計る必要があろう。